

News Release

新生活スタート、台所用品などによる事故の防止について（注意喚起）

N I T E（ナイト）に通知された製品事故情報^{※1}においては、台所用品^{※2}による事故が、平成20年度から24年度までの5年間に合計2,232件^{※3}ありました。

鍋、圧力鍋、包丁等の調理器具とガスコンロ、電子レンジ等の加熱調理機器に分けて事故の特徴を分類すると、次のような事故が発生しています。

（1） 鍋、圧力鍋、包丁等の調理器具

- 鍋にあった大きさの炎ではなく、鍋底からはみ出すような炎による使用によって取っ手が加熱されて劣化し、持ち上げた際に外れて、内容物がこぼれてやけどを負った。
- お湯やスープの加熱中に突沸現象によって内容物が飛び散り、やけどを負った。
- 強化ガラス製鍋ぶたをコンロ天板に置くなど、直接炎が当たる状態にしたため、鍋ぶたが破損した。
- 圧力鍋の圧力調整装置に調理物がつまり、ふたが飛び、天井とレンジフードを破損した。
- 食品、洗剤等の塩分によって柄が腐食し、包丁の刃が折れて柄から抜け、指を切った。

（2） ガスコンロ、電子レンジ等の加熱調理機器

- 調理油過熱防止装置のついていないコンロで調理中、その場を離れたために天ぷら鍋の油が過熱して出火し、やけどを負った。
- 電子レンジ内に付着した食品カスを掃除しなかったため、加熱時に食品カスが炭化してスパークし、本体前面下方から発火した。

台所用品の事故については、「誤使用、不注意な使い方」等の使い方に関わる事故において、人的被害の発生割合が高くなる傾向があり、「製品に起因しない事故」の発生割合は、「設計、製造又は表示等に問題があったもの」などの「製品に起因する事故」と比較して約2.5倍高くなっています。

台所用品は、日常的に使用される頻度が高く、使用前や使用の際の注意によって未然に防げる事故が多くあり、入学や就職、転勤などによって新生活をスタートする時期にあたって、製品を正しく使用して事故を未然に防止していただくために、注意喚起を行うこととしました。

（※1） 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含む。

（※2） 台所用品には鍋や圧力鍋、包丁等の調理器具、ガスコンロや電磁調理器（IH調理器）等のエネルギー源を持つ加熱調理機器を含む。

（※3） 平成26年1月31日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。

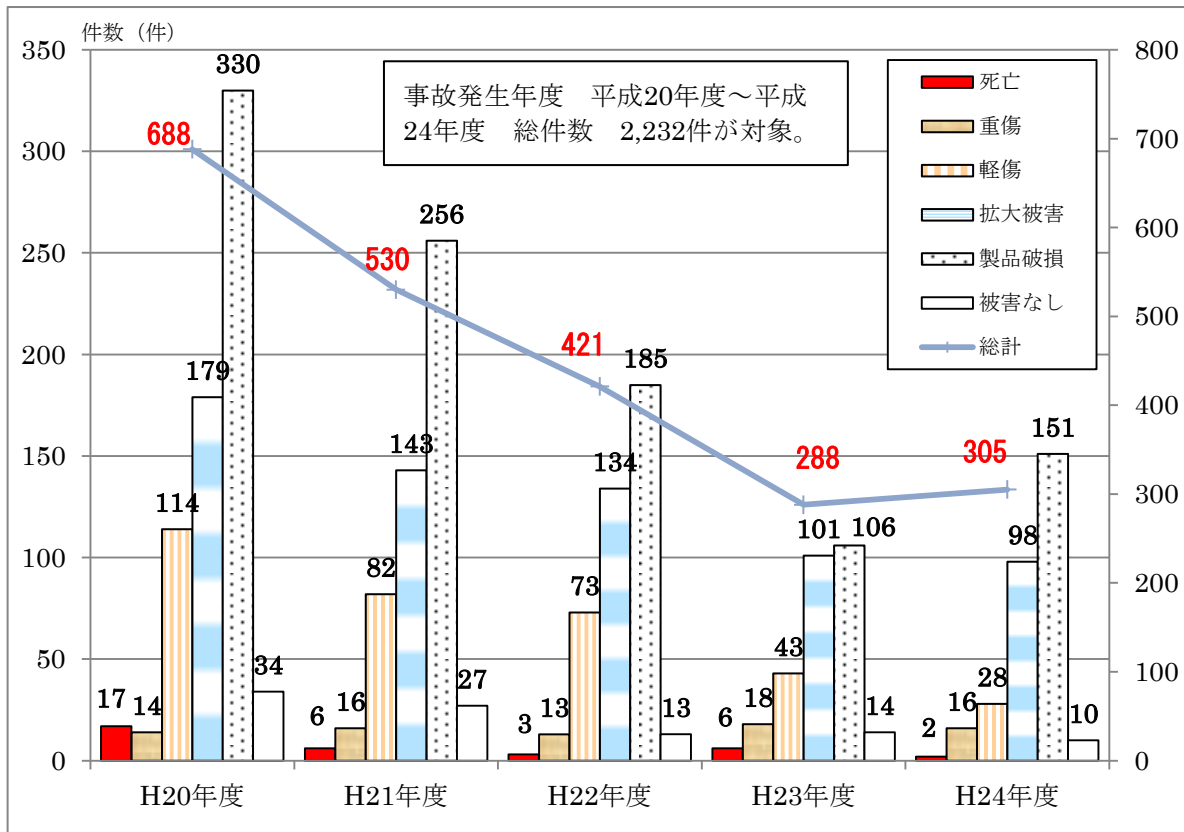
1. 台所用品による事故の発生状況

(1) 年度別事故発生件数及び被害状況

図1に「年度別事故発生件数及び被害状況」を示します。

NITEに通知された製品事故情報のうち、台所用品による事故は、平成20年度から24年度までの5年間に合計2,232件ありました。

図1 年度別事故発生件数及び被害状況



(2) 製品別事故件数

(ア) 年度別・種類別 事故件数

表1に、鍋や圧力鍋、包丁等の調理器具（以下「調理器具」という。）の「年度別 種類別 事故件数」を示します。

調理器具においては、全体で302件の事故が報告されており、その中で「鍋・鍋ぶた」が最も多く95件、次に「包丁」59件、「圧力鍋」42件、「フライパン」37件となっています。

表1 調理器具の年度別 種類別 事故件数（単位：件）

品名	H20	H21	H22	H23	H24	合計
鍋・鍋ぶた	26	29	25	8	7	95
包丁	31	16	5	6	1	59
圧力鍋	15	8	6	8	5	42
フライパン	8	8	13	3	5	37
チップスメーカー	1				28	29
やかん	7	2	4	2	1	16
卵調理器	1		2	1	3	7
スライサー	4	2		1	3	6
その他	4	1	3	1	2	11
合計	93	66	58	30	55	302

※ 同一製品の多発事故を含む

包丁：H20年度 24件、H21年度 8件（合計32件）

チップスメーカー（電子レンジ使用）：H24年度 27件

表2に、ガスこんろ、電子レンジ等のエネルギー源を持つ製品（以下「加熱調理機器」という。）の「年度別 種類別 事故件数」を示します。

加熱調理機器においては、全体で1,930件の事故が報告されており、その中で「ガスこんろ」が最も多く872件、次に「電子レンジ」476件となっています。

表2 加熱調理機器の年度別 種類別 事故件数（単位：件）

品名	H20	H21	H22	H23	H24	合計
ガスこんろ	248	181	181	146	116	872
電子レンジ	203	96	62	54	61	476
電気オーブン	26	58	33	11	6	134
電磁調理器(IH調理器)	21	30	32	18	31	132
電気炊飯器	17	19	7	1	3	47
その他	80	80	48	28	33	269
合計	595	464	363	258	250	1,930

※ 同一製品の多発事故を含む

電子レンジ：H20年度 117件、H21年度 35件（合計152件）

電気オーブン：H20年度 18件、H21年度 47件、H22年度 29件、
H23年度 6件、H24年度 2件（合計102件）

電気フライヤー：H20年度 17件、H21年度 31件、H22年度 10件（合計58件）

(イ) 被害状況別 種類別 事故件数

表3に「調理器具の被害状況別 種類別 事故件数」を示します。

調理器具においては、死亡事故は発生していないものの、重傷などの重篤な事故は28件(6.1%)発生しており、軽傷も含めると、人体に被害を及ぼす事故は合計124件(41.1%)発生しています。

表3 調理器具の被害状況別 種類別 事故件数 (単位: 件)

品名	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	被害なし	合計
鍋・鍋ぶた		11	50	1	32	1	95
包丁			6		52	1	59
圧力鍋		10	10	7	10	5	42
フライパン			9		27	1	37
チップスメーカー			1	2	26		29
やかん		2	10	1	3		16
卵調理器			3	4			7
スライサー		4	2				6
その他		1	5		5		11
合計	0	28	96	15	155	8	302

表4に「加熱調理機器の被害状況別 種類別 事故件数」を示します。

加熱調理機器においては、死亡、重傷等の重篤な事故は83件(4.3%)発生しており、軽傷も含めると、人体に被害を及ぼす事故は合計327件(16.9%)発生しています。

なお、加熱調理機器による死亡事故34件のうち、31件は製品事故に伴い発生した火災によるものです。

表4 加熱調理機器の被害状況別 種類別 事故件数 (単位: 件)

品名	死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損	被害なし	合計
ガスこんろ	31(29)	21(7)	152(65)	453(188)	186	29	872(289)
電子レンジ	1(1)	7(1)	28(2)	67(9)	341	32	476(13)
電気オーブン	1	1	4	6	116	6	134
電磁調理器(IH調理器)		5	20	49(8)	48	10	132(8)
電気炊飯器		1	10	5	27	4	47
その他	1(1)	14	30	60(5)	155	9	269(6)
合計	34(31)	49(8)	244(67)	640(210)	873(0)	90	1930(316)

※ ()の数字は火災件数

事故の原因と被害^{※4}

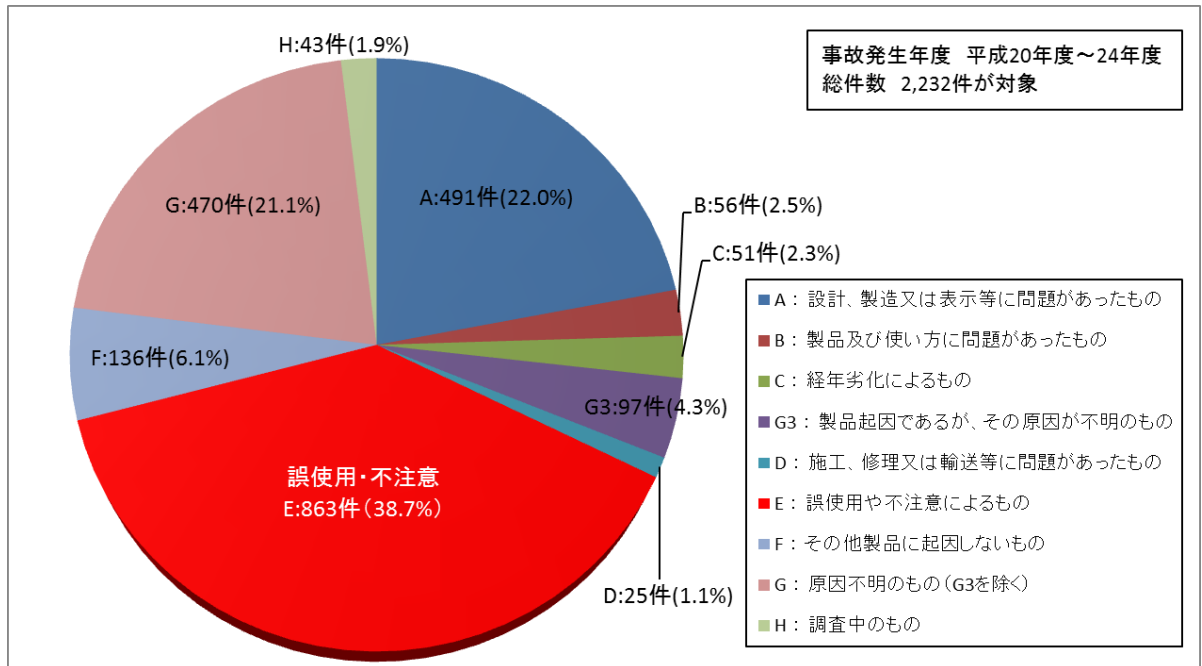
(※4) 事故原因区分の分類は別紙を参照

(ウ) 事故原因区分別 発生件数

図2に「事故原因区分別 事故発生件数」を示します。

台所用品による事故においては、「A：設計、構造又は表示等に問題があったもの」などの製品に起因する事故は合計695件（31.1%）、「E：使用者の誤使用や不注意によるもの」などの製品に起因しない事故は合計1024件（45.9%）発生しています。

図2 調理器具の事故原因区分別 事故発生件数



(エ) 事故原因区分別 被害状況

表5に「事故原因区分別 被害状況」を示します。

「死亡」「軽傷」「重傷」の人的被害は、「製品に起因する事故」においては695件中72件（10.4%）発生しています。

一方、「製品に起因しない事故」では1024件中269件（26.3%）発生しており、人的被害が発生する割合は、「製品に起因する事故」と比較して、約2.5倍高くなっています。

表5 台所用品における事故原因区分別被害状況^{※5} (単位: 件)

事故原因区分		被害状況			人的被害		物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損				
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示等に問題があったもの		9 (9)	38 (38) [2]	33 [2]	403	8	491 (47) [4]		
	B: 製品及び使い方に問題があったもの		2 (2)	14 (15)	5	34	1	56 (17) [0]		
	C: 経年劣化によるもの			2 (2)	19	29	1	51 (2) [0]		
	G3: 製品起因であるが、その原因が不明のもの			7 (8)	18 [3]	69	3	97 (8) [3]		
	小計	0 (0) [0]	11 (11) [0]	61 (63) [2]	75 (0) [5]	535 (0) [0]	13 (0) [0]	695 (74) [7]		
製品に起因しない事故	D: 施工、修理、又は輸送等に問題があったもの			9 (9) [2]	10	6		25 (9) [2]		
	E: 誤使用や不注意によるもの	13 (15) [11]	25 (25) [5]	166 (202) [47]	407 [164]	200	52	863 (242) [227]		
	F: その他製品に起因しないもの	8 (10) [8]	21 (21)	27 (43) [10]	52 [11]	21	7	136 (74) [29]		
	小計	21 (25) [19]	46 (46) [5]	202 (254) [59]	469 (0) [175]	227 (0) [0]	59 (0) [0]	1024 (325) [258]		
G: 原因不明のもの (G3を除く)		13 (17) [12]	8 (8) [2]	77 (86) [6]	97 [28]	249	26	470 (111) [48]		
H: 調査中のもの			12 (12) [1]		14 [2]	17		43 (12) [3]		
合計	事故件数 被害者数 火災件数	34 (42) [31]	77 (77) [8]	340 (403) [67]	655 (0) [210]	1028 (0) [0]	98 (0) [0]	2232 (522) [316]		

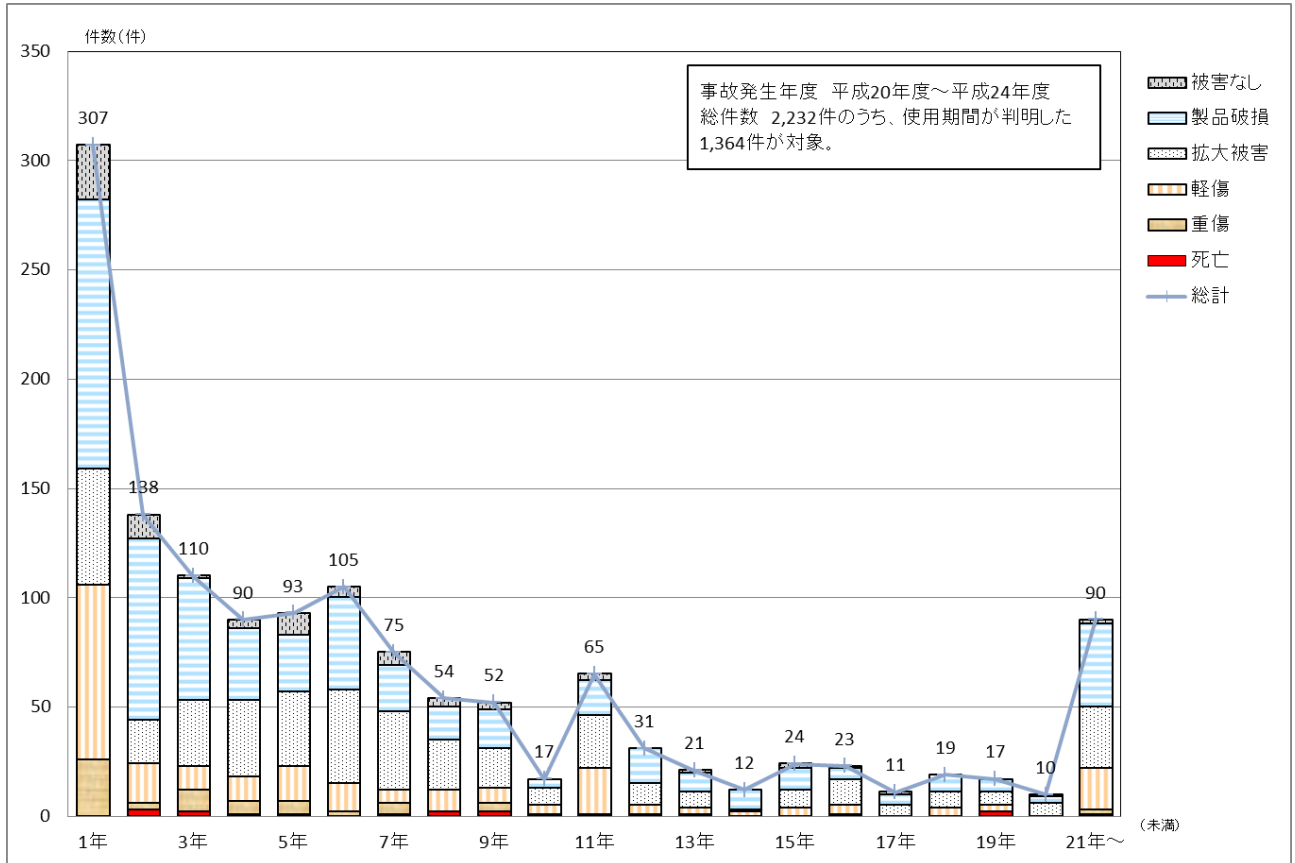
(※5) 平成26年1月31日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数。
 人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。
 製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(4) 使用期間別の被害状況

台所用品による事故 2, 232 件のうち使用期間が判明した事故 1, 364 件について、
図 3 に「使用期間別 被害状況」を示します。

台所用品による事故は、使用開始から 1 年未満に最も多く発生しており、307 件発生し
ており、全体の 22.5% を占めています。

図 3 調理器具の使用期間別 被害状況 (単位: 件)



2. 現象別事故発生状況及び事故事例

(1) 事故の現象別被害状況

(ア) 調理器具における被害状況

表7に「調理器具の現象別 被害状況」を示します。

調理器具においては、こんろに置いて使用する「鍋・鍋ぶた」「圧力鍋」及び「フライパン」で「鍋底からはみ出すような炎による使用によって取っ手が過熱され、持ち上げた際に外れ、内容物がこぼれてやけどを負った」事故が多く発生しており、全体で44件発生しています。

その中で、「鍋・鍋ぶた」においては33件あり、発生件数、人的被害件ともに最も多く発生しています。

それ以外では、「包丁」において「柄の部分に隙間があり、塩分等が進入しやすい構造となっていたことにより腐食して柄が折れた」が39件、「圧力鍋」において「安全装置等に調理物が詰まったため、内部の圧力が異常上昇し、ふたが飛び、やけどを負った」が2件等の事故が発生しています。

(イ) 加熱調理機器における被害状況

表8に「加熱調理機器の現象別 被害状況」を示します。

加熱調理機器においては、「ガスこんろ」において、「揚げ物調理中にその場を離れていたため、油が過熱されて発火」事故及び「火をつけたまま放置したため、溜まった油脂や周囲の可燃物などが過熱されて発火」事故が多く発生しており、合計で322件発生しています。

それ以外では、「電子レンジ」及び「電気オーブン」において、「庫内に付着した食品カス等の汚れが加熱されて炭化し、発火・発煙」事故が多く発生しており、特に「電子レンジ」においては180件あり、人的被害に至る割合は低いものの、発生件数は最も多くなっています。

表7 台所用品（調理器具）の現象別被害状況※6（単位：件）

被害状況 現象の内容		人的被害			物的被害			被 害 し 合 計
		死 亡	重 傷	軽 傷	拡 被 大 害	製 破 品 損	被 害 し 合 計	
鍋・鍋ぶた	鍋底からはみ出すような炎で取っ手が過熱され、取っ手が外れた		1 (1)	32 (32)				33 (33)
	鍋ぶたに直接炎が当たる状態で使用したため、鍋ぶたが破損した					8		8 (0)
	突沸現象によって内容物が飛び散り、やけどを負った		1 (1)	3 (3)				4 (4)
	その他（着脱式の取っ手の使い方を誤って鍋を落下させる等）		7 (7)	11 (12)		17		35 (19)
圧力鍋	鍋底からはみ出すような炎で取っ手が過熱され、取っ手が外れた		1 (1)	2 (2)		4		7 (3)
	圧力調整装置に調理物が詰まったため、内部の圧力が異常上昇した				2			2 (0)
	がたつきがある状態で使用したため、ふたが飛び、やけどを負った		1 (1)					1 (1)
	その他（内圧がかかった状態で無理にあける等）		1 (1)	3 (4)	2	4	3	13 (5)
フライパン	鍋底からはみ出すような炎で取っ手が過熱され、取っ手が外れた			4 (4)				4 (4)
	取っ手に進入した水が滞留、腐食したことによって取っ手が外れた					18		18 (0)
	その他（取っ手の部品が外れた状態で使用、製造時の傷による破損等）			3 (3)		6		9 (3)
包丁	柄が折れた			1 (1)		37	1	39 (1)
	その他（包丁の使用時、峰で指を切った等）			3 (3)		11		14 (3)
その他の調理器具による事故			7 (7)	14 (15)	1	6		28 (22)
原因不明			4 (4)	20 (23)	10	42	4	80 (27)
調査中のもの			5 (5)			2		7 (5)
合 計	事故件数 被害者数		28 (28)	96 (102)	15 (0)	155 (0)	8 (0)	302 (130)

（※6）平成26年1月31日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。（ ）は被害者数。[]は火災件数
人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。

製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

表8 台所用品（加熱調理機器）の現象別被害状況※7（単位：件）

被害状況 現象の内容		人的被害			物的被害		被害なし	合計
		死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
ガスこんろ	揚げ物調理中にその場を離れていたため、油が過熱されて発火	4 (4) [4]	4 (4) [4]	39 (56) [32]	111 [85]	5	5	168 (64) [125]
	火をつけたまま放置したため、溜まった油脂や周囲の可燃物などが過熱されて発火	5 (6) [5]	1 (1) [1]	22 (27) [14]	101 [54]	21	4	154 (34) [74]
	その他（誤って未接続の栓を開いたため、ガスが漏れて着火等）	9 (9) [7]	11 (11) [1]	75 (94) [8]	194 [31]	140	15	444 (103) [45]
電子レンジ	庫内に付着した食品カス等の汚れが加熱されて炭化し、発火・発煙			1 (1)	3 [1]	166	10	180 (1) [1]
	その他（部品の不良等）		5 (5) [1]	22 (23) [2]	49 [2]	89	12	237 (28) [5]
電気オーブン	部品の組み付け不良					100		100 (0) [0]
	庫内に付着した食品カス等の汚れが加熱されて炭化し、発火・発煙			1 (1)		1	2	4 (1) [0]
	その他（取付ねじの締め付け不良等）	1 (1) [1]		1 (1)	5 [1]	9	3	19 (2) [2]
その他の加熱調理機器による事故		1 (2) [0]	14 (14)	50 (54) [11]	76 [8]	192	11	359 (70) [8]
原因不明		14 (20) [14]	7 (7)	33 (44) [11]	79 [26]	75	21	229 (71) [51]
調査中のもの			7 (7) [1]		14 [2]	15		36 (7) [3]
合計	事故件数 被害者数 火災件数	34 (42) [31]	49 (49) [8]	244 (301) [67]	640 (0) [210]	873 (0) [0]	90 (0) [0]	1930 (392) [316]

(※7) 平成26年1月31日現在、重複、対象外情報を除いた事故発生件数。()は被害者数。[]は火災件数
人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。

製品本体のみの被害（製品破損）にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(2) 事件事例の概要

N I T Eに報告された事故情報のうち、新生活を開始するにあたって注意が必要と思われる事例を示します。

(ア) 調理器具による事故

① 鍋の取っ手が外れ、内容物がこぼれてやけどを負った。

平成21年 1月20日（秋田県、年代不明・男性、重傷）

【事故内容】

調理中、鍋を持ち上げた際に取っ手が折れたために熱湯が飛び散り、やけどを負った。

【事故原因】

長時間あるいは長期間にわたり、鍋にあった大きさの炎ではなく、鍋底からはみ出すような炎による使用を続けたことにより、取っ手の樹脂が加熱されて劣化し、亀裂が生じて、持ち上げた際に折れ、やけどに至ったものと推定される。

② 突沸現象によって内容物が飛び散り、やけどを負った。

平成20年12月19日（神奈川県、40歳代・女性、軽傷）

【事故内容】

鍋で湯を沸かしていたところ、突然沸騰した湯が飛び散り、顔にやけどを負った。

【事故原因】

水、みそ汁などの液体を温めるとき、些細なきっかけ（容器をゆする、塩、砂糖などを入れる）によって生じる突沸現象により、湯が飛散したものと推定される。

③ 鍋ぶたに熱が加わって破損した。

平成21年 5月18日（大阪府、年代不明・女性、製品破損）

【事故内容】

調理後、強化ガラス製の鍋ぶたが突然割れた。

【事故原因】

当該製品は強化ガラス製の鍋ぶたで、ステンレス枠の一部に過加熱による変色があり、当該変色箇所位置していた部分を中心に割れが広がっていることから、鍋ぶたに直接炎が当たる使用をしたことでガラスの表面にクラックが生じ、その後の使用等によってクラックが伸展し、破損に至ったものと推定される。

④ 圧力鍋のふたが飛び、内容物が飛び散り顔にやけどを負った。

平成20年11月23日（神奈川県、60歳代・女性、重傷）

【事故内容】

圧力鍋で調理中、ふたを開けるためにしばらく放置した後、水をかけたところ、ふたが飛び、内容物が飛び散り顔にやけどを負った。

【事故原因】

取っ手と鍋本体を繋ぐねじが緩み、がたつきが生じた状態のまま使用されていた。

本来、内圧が上がるとふたのロックレバーが本体ガイドにかかる構造であるが、取っ手のがたつきにより、力を入れてふたを開けようとした際にロックレバーと本体ガイドの間に隙間が生じ、ロックレバーが本体ガイドにかからず、ふたが開いたものと推定される。

⑤ 圧力鍋のふたが飛び、天井とレンジフードを破損した。

平成25年1月31日（愛知県、年齢不明・男性、拡大被害）

【事故内容】

圧力鍋で調理中、鍋のふたが飛び、天井とレンジフードを破損した。

【事故原因】

圧力調整装置及び安全装置に異物の付着がみられたことから、調理中に圧力調整装置に調理物が詰まったため、内圧が異常上昇して破裂し、ふたが飛んだものと推定される。

⑥ フライパンの取っ手が破損した。

平成22年11月10日（大阪府、年齢不明・女性、製品破損）

【事故内容】

フライパンの取っ手が破損した。

【事故原因】

食品等による塩分あるいは塩素を含む洗浄剤の影響で、塩分等を含む水分が取っ手内に浸入し、取付金具が腐食したことにより、取っ手が破損したものと推定される。

⑦ 包丁の刃が折れて指を切った。

平成22年6月21日（茨城県、40歳代・女性、軽傷）

【事故内容】

使用中の包丁の刃が折れて柄から抜け、指を切った。

【事故原因】

包丁の柄元が挿入された柄の部分に隙間があり、塩分等が浸入し易い構造であったため、塩分等による隙間腐食が生じて刃の柄元の強度が低下し、腐食による亀裂が伸展して、折損に至ったものと推定される。

(イ) 加熱調理機器による事故

⑧ こんろで調理中に出火し、製品の周辺が焼損してやけどを負った。

平成21年1月16日（香川県、10歳代・男性、軽傷）

【事故内容】

調理油過熱防止装置のついていない側のこんろで揚げ物を調理中、こんろを消し忘れてその場を離れたために出火し、当該製品の周辺が焼損し、2人が軽傷を負った。

【事故原因】

調理油加熱防止装置が付いていない側のこんろに天ぷら鍋をかけたまま、その場を離れたために、天ぷら鍋の油が過熱され、火災に至ったものと推定される。

⑨ 電子レンジで食品をあたためようとしたら、電子レンジから発火した。

平成22年6月15日（三重県、50歳代・男性、製品破損）

【事故内容】

電子レンジに冷凍パンを入れてあたためボタンを押したところ、本体前面下方から発火した。

【事故原因】

被害者が庫内に付着した食品カスを清掃しなかったため、加熱調理時に食品カ스에マイクロ波が集中し、炭化してスパークが発生したものと推定される。

3. 台所用品による事故の防止

台所用品による事故を未然に防ぐため、取扱説明書に表示された注意事項をよく読み、正しく使用してください。不具合や故障が判明した時は、使用を中止し、製造事業者や販売店に相談してください。

(1) 調理器具による事故の防止

① 炎が鍋の底面からはみ出さないように使用する

【鍋・鍋ぶた、圧力鍋、フライパン】

調理時は鍋をこんろの中央におき、炎が鍋の底面より大きくならないように火力を調整してください。

鍋底からはみ出すほどの炎による使用によって、取っ手が脆化して外れ、内容物を落とすやけどを負うおそれがあります。

また、鍋による調理を行う際、鍋ぶたを鍋からずらして使用する等、ふた本体に直接炎があたる使用を続けると、部分的な加熱などによってふたが破損するおそれがあります。

② とろみのある食品を加熱する際は、火力を弱めにしておくかき混ぜる

【鍋・鍋ぶた】

みそ汁やとろみのある食品（カレーやシチュー等）を調理する時は、火力を弱めにし、お玉などでよくかき混ぜながら温めてください。

とろみのある食品を強火で急に加熱すると、過加熱状態の部分ができ、突沸の原因となり、やけどをするおそれがあります。

また、場合によっては鍋が飛ぶことがあります。

③ 使用後は十分に洗い、乾燥させて保存する

【フライパン、包丁】

腐食の原因になるので、洗い桶などの水及びお湯の中への放置はせず、使用後は柔らかい スポンジに石けんまたは中性洗剤をつけて洗い、よくすすいで水気を切り、風通しのよいところで十分乾燥させてから保存してください。

食品等の塩分あるいは塩素を含む洗剤の影響によって、フライパンの取付金具が腐食し、取っ手の強度が低下してがたつき、取っ手が外れるおそれがあります。

また、包丁においても柄の部分に生じた隙間から、塩分等が進入することによって腐食し、柄本の強度が低下してがたつき、刃が折れるおそれがあります。

④ 使用前後は、圧力調整装置がつまっていないか確認する

【圧力鍋】

圧力鍋を使用する時は、圧力調整装置がつまっていないか必ず確認し、使用後は取扱説明書の指示に従って手入れを行ってください。

圧力調整装置がつまっていると、圧力調整が適切に行われず、ふたが飛んだり内容物が飛び散り、やけどを負うおそれがあります。

また、豆類やパスタ等の調理によって分量が増えるものは、豆の皮や食材の一部が圧力調整装置に入り込み、圧力調整が適切に行われなくなるおそれがあります。これらの調理を行う際は、食材と水分等をあわせて、鍋の容量の1/3以下にして使用して下さい。

圧力調整装置がつまっている場合は、製品に添付されたクリーニングピン（掃除ピン）を用いて、つまりを解消してください。

(2) 加熱調理器具による事故の防止

① 火をつけたままその場を離れない、就寝、外出をしない

【ガスコンロ】

調理中はその場を離れないでください。特に天ぷら等の揚げ物をしている時やグリル調理中は、絶対にその場を離れないでください。

また、その場を離れるときは、必ず火が消えていることを確認してください。調理中のものが焦げたり燃えたりして火災が発生するおそれがあります。

※ ガスコンロによる事故防止のための注意事項は、他にも多数ありますので、詳しくは以下URLをご参照ください。

「ガスコンロ及びカセットコンロの事故の防止について（注意喚起）」
(平成24年12月20日)

<http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs121220.html>

② 庫内をこまめに清掃する

【電子レンジ】

電子レンジ、電気オーブンの庫内はこまめに掃除を行ってください。

庫内やドアに食品カスが付着したまま使用すると、炭化して発煙や火花が発生するおそれがあります。

※ 電子レンジによる事故防止のための注意事項は、他にも多数ありますので、詳しくは以下URLをご参照ください。

「電子レンジ及び電子レンジとの組み合わせで使用される製品の事故の防止について（注意喚起）」(平成24年4月19日)

<http://www.nite.go.jp/jiko/press/prs120419.html>

お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 大福 敏彦
担当者 長田、池谷、西澤

○ 記者説明会前日及び当日

電話：03-3481-6566 FAX：03-3481-1870

○ 記者説明会前々日まで及び翌日以降

電話：06-6942-1113 FAX：06-6946-7280

本文中では、事故原因区分を以下の表のように分類しています。

	区分記号	本文表記	事故原因区分
製品に起因する事故	A	設計、製造又は表示等に問題があったもの	専ら設計上、製造上又は表示に問題があったと考えられるもの
	B	製品及び使い方に問題があったもの	製品自体に問題があり、使い方も事故発生に影響したと考えられるもの
	C	経年劣化によるもの	製造後長期間経過したり、長期間の使用により性能が劣化したと考えられるもの
	G3	製品起因であるが、その原因が不明のもの	製品起因であるが、その原因が不明のもの
製品に起因しない事故	D	施工、修理、又は輸送等に問題があったもの	業者による工事、修理、又は輸送中の取扱い等に問題があったと考えられるもの
	E	誤使用や不注意によるもの	専ら誤使用や不注意な使い方と考えられるもの
	F	その他製品に起因しないもの	その他製品に起因しないか、又は使用者の感受性に関係すると考えられるもの
その他	G	原因不明のもの(G3は除く)	原因不明
	H	調査中のもの	調査中のもの

社告・リコール製品による事故の防止

表1に「社告・リコール製品による事故の製品別の被害状況」を示します。

台所用品による事故2, 232件のうち、社告・リコール^{※1}を行った製品による、社告・リコール事象の事故は376件ありました。

事故の事例としては、

- 鍋において「取っ手の付け根部分に製造不良があり、使用を続けるうちに取っ手の付け根の腐食が進み、取っ手が折れた」。
- 圧力鍋において「ゴムパッキンの硬さが不十分だったため、ハンドルの開蓋強度が不足して、圧力が十分に下がらない状態でもふたが開き、内容物が飛び散ってやけどを負った」。
- 電子レンジにおいて、「導波管カバーに導電性のある異物が混入する部品不良があり、その異物にマイクロ波が集中して、スパークが発生し、導波管カバーに穴を開けた」。
- 電気オーブンにおいて、「電源コードと内部リード線の接続端子部における取り付けネジの締付け不良により、異常発熱し、発火した」。

…等がありました。

リコール製品をそのまま使い続けることは大変危険ですので、お使いの製品がリコール製品に該当している場合は、不具合が認識されない場合でも、直ちに使用を中止して、製造業者や販売店に連絡して下さい。

(※1) 社告・リコールには消費者への注意喚起等を含む。

社告・リコール情報の検索

NITEホームページにおいて、平成元年度（1989年度）以降に製造業者、販売業者等の事業者が行った社告・リコール情報を収集したデータベースを公開しており、社告・リコール情報の検索を行うことができます。

<http://www.jiko.nite.go.jp/php/shakoku/search/index.php>

検索サイトを利用する場合は、「NITE」、「リコール」等の単語で検索してください。

表 1 台所用品の社告・リコール製品による事故の被害状況^{※2}

被害状況 製品の種類		人的被害			物的被害		被 な 害 し	合計
		死 亡	重 傷	軽 傷	拡 被 大 害	製 破 品 損		
調理器具	鍋		2 (2)	1 (1)		9		12 (3)
	やかん		1 (1)	3 (3)				4 (4)
	圧力鍋		1 (1)	1 (1)			1	3 (2)
	その他調理器具			2 (2)		2		4 (2)
加熱調理機器	ガスこんろ				2	6		8 (0) [0]
	電子レンジ			7 (7) [2]	31 [1]	196		234 (7) [3]
	電気オーブン					18		18 (0) [0]
	電磁調理器 (IH調理器)				1	5		6 (0) [0]
	その他加熱調理機器		2 (2)	4 (4)	5	74	2	87 (6) [0]
合計		0 (0) [0]	6 (6) [0]	18 (18) [2]	39 (0) [1]	310 (0) [0]	3 (0) [0]	376 (24) [3]

(※2) 平成26年1月31日現在、重複、対象外情報を除いた件数。

()の数字は被害者数。[]の数字は火災件数。

人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害には重複カウントしない。

製品本体のみの被害(製品破損)にとどまらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

表2 台所用品に関わる社告・リコール一覧※3

公表日	品名	事業者名	製品名
2008/06/20	オーブンレンジ	三洋電機株式会社 CE ビジネスユニット (旧社名: 三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社)	<p>[製品名及び型式]</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 全数対象の機種 EMO-BC8、EMO-CH10、EMO-MVP7、EMO-SJ9、EMO-CH4、EMO-H40、EMO-S4、EMO-T5、EMO-CH5、EMO-H60、EMO-S5、EMO-T6、EMO-CH6、EMO-KDH1、EMO-S6、EMO-T7、EMO-CH7、EMO-ME5、EMO-S7、EMO-TH5、EMO-CH8、EMO-MVP5、EMO-S8、EMO-TH6、EMO-CH9、EMO-MVP6、EMO-S9、EMO-CH8FF※ ● 製造番号により一部対象の機種 <p>下記の機種は、本体右側面の機種名、製造番号をご確認ください。</p> <p>EMO-CH3 (HW) 対象製造番号: 023001~025000 EMO-S3 (HL) 対象製造番号: 043501~051500 EMO-SH1 (H) 対象製造番号: 006001~009000</p> <p>[製造期間] 2000年6月~2007年9月</p>
2008/08/29	鍋	株式会社 ニッセン	<p>[製品名及び型式]</p> <p>赤い両手鍋: (管理番号: 1321-4891-111) ホーロー鍋セット: (管理番号: 1281-7281-111) ホーロー鍋DX: (管理番号: 1281-7291-111)</p> <p>[販売等期間] 2008年1月~2008年2月 (発送)</p>
2008/10/10	圧力鍋	パール金属株式会社	<p>[製品名及び型式]</p> <p>H-4526 バリュープライス ステンレス製 3層底圧力鍋 3リットル (4合炊)</p> <p>[販売等期間] 2005年08月01日~2007年09月01日</p>
2008/11/19	電子レンジ	パナソニック株式会社 (旧松下電器産業株式会社)	<p>[製品名及び型式等]</p> <p>NE-A555、NE-A575、NE-AB50、NE-AC50、NE-AC60、NE-AT66、NE-AT70、NE-AT80、NE-OT1、NE-OT2、NE-P300、NE-P500</p> <p>[製造・販売期間] 1988年12月~1993年12月 (製造)</p>
2008/11/25	電子レンジ (再々社告)	株式会社千石 (製造元)、岩谷産業株式会社 (販売元)	<p>[製品名及び型式]</p> <p>イワタニ単機能電子レンジ IM-574 (97・98・99年生) IM-574S (98・99年製) IM-575 (98・99・2000年製) IM-575S (99・2000年製)</p> <p>[販売等期間] 1997年03月~2000年10月</p>

(※3) N I T Eホームページで公開している社告・リコール情報のうち、平成20年度以降に報告されたもの

公表日	品名	事業者名	製品名
2008/11/25	電気たこ焼き器 (再社告)	株式会社ミュージーコー ポレーション (輸入)、株 式会社山善 (販売)	[製品名及び型式] (1)製品型番「TYX-650」 製造日/2004年3月~7月 製造番号/26GE、28GE、29GE、06GE (2)製品型番「OPX-18」 製造日/2004年4月~5月 製造番号/10DE、11DE、12DE、20DE、17EE、18EE、20EE [販売等期間] 2003年03月26日~2004年07月06日 (製造)
2009/02/03	電子レンジ	日立アプライアンス株式 会社	[製品名及び型式] MRO-5400/MRO-5400A/MRO-5000/ MRO-5800S/MRO-5510/MRO-5700S/MRO-5600/MR-500 [販売等期間] 1979年7月~1983年8月 (製造)
2009/10/21	電子レンジ	パナソニック株式会社 (旧 松下電器産業株式会社) ホ ームアプライアンス社	[製品名及び型式] NE-A555、NE-A575、NE-AB50、NE-AC50、NE-AC60、 NE-AT66、NE-AT70、NE-AT80、NE-OT1、NE-OT2、NE-P300、 NE-P500 [販売等期間] 1988年12月~1993年12月
2009/10/29	オーブンレンジ	東芝ホームアプライア ンス株式会社	[製品名及び型式] ER-C5、ER-AE5 [販売等期間] 2004年12月~2005年12月
2009/11/24	圧力鍋	ビタクラフトジャパン株 式会社	[製品名及び型式] ビタクラフトスーパー圧力鍋2.5L (No. 0602) 及び3.5L (No. 0603) 圧力鍋用「ゴムパッキング」(小) [製造期間] 2008年~2009年
2010/02/02	ステンレス製多 重構造鍋	日本アムウェイ合同会社	[製品名及び型式] アムウェイ・クィーン・クックウェア (旧製品) のソ ースパン、フライパン [販売等期間] 1979年~2006年12月末日

公表日	品名	事業者名	製品名
2010/07/13	電子ジャー付ガス炊飯器	リンナイ株式会社	<p>[製品名及び型式] 『αかまど炊き』 ブランド：リンナイ 型式： RR-05MRT/07MRT/10MRTRR-05MRT (A)/07MRT (A)/10MRT (A)/RR-S10MRT/RR-S10MKT ブランド：大阪ガス 型式： 111-5010A/5014A/5020A/111-R520/R521/R522/111-R520A/R521A/R522A ブランド：東京ガス 型式： RN-410TA-MCK/RN-414TA-MCK/RN-420TA-MCK ブランド：東邦ガス 型式：RAJ-5MTK/7MTK/10MTK [販売等期間] 製造期間：2005年8月1日～2009年9月上旬</p>
2010/11/10	フライパン	アイク株式会社（輸入） イオン株式会社（販売）	<p>[製品名及び型式] ベストプライス by トップバリュ「フッ素コートフライパン（ガス火用）26cm」 サイズ：26cm、カラー：シルバー [販売等期間] 2010年8月18日～2010年10月8日</p>
2011/03/04	コーヒー/ティーメーカー(ティーサーバー)	イケア・ジャパン株式会社	<p>[製品名及び型式] FORSTA/フォールストークーヒー/ティーメーカーサイズ：0.4L/1L [販売等期間] 2010年2月～2010年12月</p>
2011/03/18	IH 調理器（電磁調理器）	株式会社永泰産業（輸入）、 株式会社テスコム（販売）	<p>[製品名及び型式] IH 調理器・TIH101 [POSコード]4975302 811110 [販売等期間] 2004年9月21日～2007年5月21日</p>
2011/04/06	片手鍋（取っ手）	株式会社ベストコ（製造）、 イズミヤ株式会社（販売）	<p>[製品名及び型式] good-i ステンレス3層底 片手鍋14cm/片手鍋16cm/片手鍋18cm [販売等期間] 2010年9月～</p>
2012/02/07	電子レンジ	ツインバード工業株式会社	<p>[製品名及び型式] オープンレンジ DR-D917型 [販売等期間] 2011年10月～2012年1月</p>

公表日	品名	事業者名	製品名
2013/02/07	コーヒーメーカー	タイガー魔法瓶株式会社	[製品名及び型式] 製品: コーヒーメーカー ACW-S 型 [販売等期間] 2011年7月14日~2012年5月9日
2013/04/08	鍋つかみ	株式会社まるき	[製品名] フェルト製ミトン 森シリーズ: パンダ柄、トリ柄、イヌ柄、ウサギ柄、4色アソート [販売等期間] 2007年9月20日~2009年3月31日
2014/01/10	オーブントースター	イオン株式会社	[製品名及び型式] トップバリュ 温度調節機能付きオーブントースター 品番: ABM-TV101 横W (白色) 品番: ABM-TV101 横R (赤色) [販売等期間] 2013年8月~2014年1月
2014/01/22	オーブントースター	株式会社山善	[製品名及び型式] YAMAZEN オーブントースター 品番: BTM-E1000[R]、BM-Y100[WR] [販売等期間] 2013年2月~2014年1月